

# 博物館だより



No.140

平成30年7月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## ◆博物館NEWS 博物館企画展

### 「みやここと世界の昆虫展」開催!

当館では、7月22日(日)から夏休み企画「みやここと世界の昆虫展」を開催します。

この企画展では、みやこ町在住の松田勝弘氏が、みやこ町をはじめ、世界各国で採集した、貴重な昆虫の標本コレクションを展示します。

開催期間中は松田勝弘氏の指導による昆虫採集や展示関連のトークイベント等を開催します。色とりどりの昆虫の世界をお楽しみください。

#### ■会期

7月22日(日)～8月31日(金)

#### ■場所

みやこ町歴史民俗博物館  
企画展示室兼研修室ほか

#### ■観覧料

常設展の観覧料でご覧いただけます。



## 企画展関連事業

### (1) 昆虫採集

①実施日時及び集合場所  
7月29日(日) 9:00～

みやこ町歴史民俗博物館

### (2) 対象者

町内小学校の1～4年生の先着20名のみ参加可。保護者同伴参加が前提。

(捕虫網・カゴや弁当、水筒、帽子、長靴等は各自で持参。)

### (2) トークイベント

①事業名称及び実施日時・場所  
「みやここと世界の昆虫について」

8月19日(日) 10:00～11:30  
博物館ロビー

\*参加は自由です。

### (3) 鉱物標本を作ろう

①実施日時及び集合場所  
8月19日(日) 13:30～15:00

博物館ロビー

### (2) 参加対象者

町内在住の小学生。  
先着40名のみ参加可。

\*低学年(1～3年生)は、保護者同伴の参加が前提。

\*兄弟・姉妹の参加者のうち、未就学児同伴者については託児を受付。



## ◆講座・教室・催し物ガイド 7月の歴史講座

### 【漢詩紀行講座】

7月7日(土) 9時30分～

### 【古文書講座】

7月14日(土) 10時～

### 【古典かな講座】

7月21日(土) 9時30分～

### 【みやこ学講座】

7月28日(土) 10時～

※日程等変更となる場合があります。  
※見学会等は別途ご案内します。

## 「文化のみやこづくり」記念 絵画・作文コンクール作品募集!

博物館では京築地区に在住・通学する小・中・高校生を対象に、ふるさとの歴史と文化ゆかりの絵画・作文コンクールを行います。

絵画は「わたしの町の過去・現在・未来」をテーマに、作文は「歴史」をテーマとしたもので募集します(ただし、作文は小学5・6年生のみ対象)。夏休みの取組みにいかがですか?  
詳しい応募方法等は博物館 ☎ 33-4666へお問合せを!

## 「夏のバスハイク」 参加者募集!

博物館が友の会と協力して行う見学会。今回は福岡市博物館「ポストン美術館浮世絵名品展―鈴木春信―」等鑑賞がテーマです。ふるってご参加下さい!

・日 時: 8月5日(日)  
・参加費: 3000円  
※申込み・問い合わせは博物館まで。  
※定員となり次第締め切ります。

## 5月の業務日誌から

5月20日(日)、犀川上伊良原の高木神社で豊前神楽の若手継承者を集めた「神楽談議」が開かれました。新町勢要覧編集に伴う企画ですが、博物館もお手伝い。伝統の若き担い手たちの率直な意見が伺えました。

5月27日(日)、博物館研修室で博物館友の会の定期総会とともに、川本英紀氏による「幕末維新期の郷土」と題した記念講演が行われました。維新ゆかりのタイムリーな話題に皆さんの関心が高まりました。



▲今年は「明治150年」。身近な歴史を顧る好機になりました



▲会場となった拝殿は藪かで、談議の舞台にピッタリでした

# みやこの歴史発見伝 108

## よしだますぞう 吉田増蔵(その二)

「元号」ができるまで

### 平成の終焉と新元号

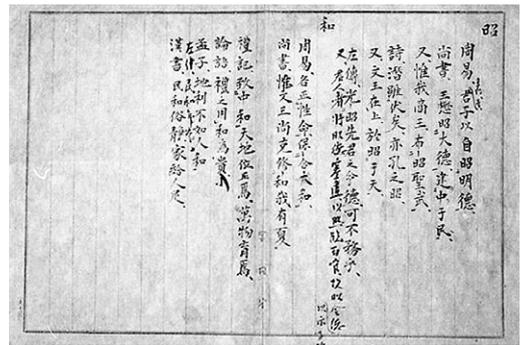
一九八九年一月八日にはじまり、二〇一九年四月三〇日をもって終焉を迎える予定の「平成」の元号ですが、日本の元号では初めて「成」の字が使われ、また「元号法」に基づいて改元された最初の元号となりました。古来、元号は天皇によって決められるものでしたが、現在は、内閣総理大臣により元号選定が行われます。

元号選定は、総理大臣が「考案者」を選定し、新元号の候補名について考案を委嘱します。考案者は複数の候補名を提出しますが、その際には候補名に伴う意味や「典拠」（文献などの根拠）の説明を添付することが求められます。その後、提出された候補名から「原案」を選定し、閣議で新元号を決定します。元号考案に携わる考案者は国内外などの幅広い漢字の知識と応用力に秀でた人物であることが求められますが、「昭和」の

元号考案者である吉田増蔵はこれらの条件を兼ね備えた人物であったことがうかがえます。

### 「元号」の歴史

「元号」は、一般的に「年号」と呼ばれ、中国をはじめとする漢字文化圏で用いられた紀年法です。中国で紀元前一四〇年頃前漢の武帝が定めた「建元」が世界で初めて用いられた元号とされ、その後、ベトナムなどアジア各国でも広く採用されました。しかし二十世紀を境にアジア各国で元号使用が衰退し、現在、元号制度が残る国は日本のみであることから、元号が日本独自の文化として定着したのとなつていきます。日本では、六四五年に制定された「大化」からはじまり、平成まで二四七（南北朝双方の元号を含む）の元号が使用されました。これは平均で五年に一度改元したことになり、その間で二十年以上続いた元号は九例に止まります。中には一〜三年で改元された元号も含まれるなど、頻繁に改元が行われたことが確認できます。このように数多くの元号が作られた理由として、古代より天皇の即位だけではなく、大地震などの災害や飢饉・



▲「昭・和」の典拠（吉田増蔵直筆）

疫病などが発生すると、その災いを断ち、疫病退散などの願いを込めてその都度改元が行われたことなどが挙げられます。このように改元は精神的に重要な儀式としての側面も併せ持つものでした。このような状況に終

止符を打ったのが「明治」の改元と同時に出示された「一世一元の詔」で、天皇一代につき一つの元号を用いるという現在の形式が整いました。その結果、元号が日本人に深く浸透することになりました。

### 「元号」の典拠と使用漢字

日本で作られた元号は全て「書経」や「易経」など中国の古典から引用されたものです。また「大化」以来作られた二四

七の元号は五〇四の漢字が使われ、重複を除けば七二文字に止まり、そのうち二一文字は十回以上、繰り返して使用したことが確認できます。このように重複がみられるのは、吉祥など縁起の良い漢字を優先して使用した結果であり、特に「天・永・元」などは使用頻度の高い漢字に位置付けられます。また、現在の「元号選定手続」では、「漢字二文字であること」「書きやすい・読みやすいこと」以外に外国の使用例も含めて「用いられないものでないこと」等が挙げられています。

### 「昭和」とその典拠

吉田増蔵関連資料の中には、元号考案に伴う「典拠」とみられる自筆遺稿がみられ、その他、前述の元号原案作成に至る一連の作業が復元可能な資料が残されています。詳しく見てみると外国の使用例との重複を避けるために中国等の元号を調べたものや一つ一つの漢字の意味をまとめた文書などをみることで、き、「昭和」という漢字二文字に決定するまでの苦労がうかがえる資料です。

### 新元号について

「平成」の元号決定から三十

年が過ぎ、インターネットの普及やパソコン等の性能向上により、過去の元号検索等の作業を瞬時で行うことが可能になるなど、元号考案作業も効率的に行うことができる環境になりました。その反面、元号決定の際は、行政システム等の対応を考慮して発表時期を決定する必要があらなど新しい課題も生じています。また近年、書類等記載時に元号標記でアルファベットの頭文字「T（大正）S（昭和）H（平成）」を記載する機会が多

くみられることから、これらの重複回避なども求められます。日本独自の漢字文化となった「元号」ですが、新たな元号の発表が待ち遠しく感じます。

【井上信隆】



▲元号の草案（吉田増蔵直筆）